

2016年度は、済生会熊本病院循環器内科から交替で9カ月ほど応援をいただくことができた。心臓血管外科からも2回/月、外来を支援していただいた。担当した入院患者数は前年度の248名から312名と増加。高齢者の増加は相変わらずで、平均年齢は前年よりさらに上昇し、ついに80歳を超えて、80.5歳（中央値82歳）になった。担当した患者の疾患は、循環器関連疾患が109例と最も多くなっているが、医師不足のため、呼吸器疾患58例、脳血管疾患50例、整形外科疾患（リハビリ）40例など他の領域の患者も多く担当した。

循環器疾患の内訳は、例年と同様、心不全が最も多く55例であった。心不全症例の年齢は、平均84歳であった。死亡は9例だった。心不全の原因疾患を見ると、虚血性心疾患が15例と最も多く、心筋症8例、弁膜症13例、高血圧5例、心房細動4例、肺疾患5例となっていた。

急性冠症候群や安定狭心症の多くは済生会熊本病院へ紹介しているため少ないが、入院では心筋梗塞4例、狭心症8例であった。

その他、不整脈7例、大動脈疾患8例、閉塞性動脈硬化症10例、弁膜症7例であった。20歳代の男性1名が熊本地震の後に車中泊をしていて深部静脈血栓症を発症した。

急性心筋梗塞は搬送例を含めると19例（CPAOA8例を除く）であり、うち15例を済生会熊本病院に搬送して急性期治療を行った。急性大動脈解離は13例（CPA2例）であった。急性心不全はほとんどの症例は当院で入院治療を行った。

(表1)

(例)

急性心筋梗塞（転送を含む）	19
急性大動脈解離（CPAを含む）	13
心不全	55
不整脈	7
狭心症、OMI	10
血管疾患	19
弁膜症	7

(表1)

一方、外来診療では、生活習慣病を中心に患者数が増加していて、毎月約900～1000人の患者の診療を行った。なかでも糖尿病の症例が増加しており、担当している患者の25%程

度になっている。

外来でのペースメーカーチェックも行っているが、60数名の患者が定期的に来院している。

循環器関連の検査は全体的に前年度より減少している。(表2)
(件)

	2015年度	2016年度
心エコー	1531	1439
負荷エコー	16	10
トレッドミル	50	34
ホルター	90	135
頸部血管エコー	198	131
下肢血管エコー	225	175
ABI	222	125
心臓CT	34	15
血管CT&MRI	102	130

(表2)

